

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年8月7日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2771602311
法人名	テルウェル西日本株式会社
事業所名	ケアポート大阪西吹田センターグループホームやすらぎ
所在地	吹田市出口町17番33号 (電話) 06-4861-3672

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 21年 7月 25日

【情報提供票より】(平成 21年 7月 3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 12月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤 13人, 非常勤 3人, 常勤換算	15.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000円	その他の経費(月額)	25,000円	
敷金	有() 円 無()			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,510円			

(4) 利用者の概要 (平成 21年 7月 3日現在)

利用者人数	18名	男性	0名	女性	18名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	7名	要介護4	5名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	77歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	済生会吹田病院、ちばクリニック、丹羽歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人理念である社会貢献、誠心誠意を軸に、地域との関係を大切にしながら作られたホームです。ホームの運営理念として「安心・安全・信頼」をモットーに掲げ、利用者に心のやすらぎ、家庭的な雰囲気、ゆっくりと過ごしてもらえるよう職員一丸となってケアに取り組んでいます。ホームの周りは緑に囲まれ、また福祉会館や図書館などもあり、利用者も外出する機会も多く地域の方との交流もあります。年に1回「介護予防教室」を開催し、地域や老人会の方も参加し、地域密着型のホームとしての機能を生かしています。職員は利用者に対して個々に合わせた対応を心掛け、本人のできることを尊重し見守っています。利用者も職員ものびのびと生活を楽しくしています。毎月「やすらぎ新聞」を発行し、行事やホームでの暮らしぶりなども郵送にて報告しています。家族の訪問時には、話しやすい雰囲気を作り、できるだけ苦情や要望などを聞くようにして、ホームに対し信頼と安心を感じている家族が多いことも特徴です。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連科目: 外部4)
	前回の評価結果については、スタッフ会議や毎朝の申し送りで行って報告を行っています。その際に再度内容を確認し、職員全員で改善への取り組みを行っています。研修の年間計画を作成し、「緊急時対応」の研修も実施しています。また災害時の備蓄に関しては「災害に備蓄品目定数表」を作成し、ホーム内に準備しています。入浴に関しては、時間や曜日の決まりはなくなり、好きな時に自由に利用できるように改善されており、概ね週3回入浴しています。また、体調面等の理由により入浴が難しい利用者には足浴や清拭で対応するなど工夫されています。しかし、重度化が進み、車椅子の利用者が増え、ハード面で制約がありシャワー浴のみの利用者がいます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	今回の自己評価では各職員に検討してもらい、それぞれに意見を出してもらって、それを管理者がまとめて作成しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、家族、地域包括支援センター職員、地域福祉委員が参加し、2か月に1度定期的開催されています。利用者のホームでの生活状況や行事予定の連絡、評価への取り組みや報告を行い、意見交換を行っています。意見や要望があれば、できるだけ迅速に対応し、サービスの質の向上に生かしています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	毎月「やすらぎ新聞」を発行し、ホームでの様子などを家族に郵送し連絡しています。金銭管理は金銭預かり出納帳を個別に設け、領収書の添付も行っています。家族の来訪時に残高の確認を行ってもらい、サイン・捺印を得ています。家族の来訪時などはできるだけコミュニケーションをとり、気軽に話せる雰囲気作り配慮し苦情や意見を直接言ってもらえるようにしています。改善点があれば迅速に対応していくことを心がけています。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	ホーム向かいにある福祉会館内の喫茶店にかけ、定期的に行われるバザーにも参加し、地域の方と顔なじみになり、交流の場となっています。また吹田市の長寿連合会の方との交流や、シルバーボランティアの楽団の来訪があり、利用者も楽しみにしています。

2. 調 査 報 告 書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安心・安全・信頼」を理念に掲げ、法人理念である地域に対しての社会貢献、誠心誠意をモットーに家庭的な雰囲気の中、利用者が心安らげ、役割を持って生き生きと生活できるよう支えていくことを心がけています。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関、スタッフルームに掲示しています。職員は理念を共有し、毎日の申し送りやスタッフ会議の中で、常に利用者のケアについて話し合わせ、理念を反映したケアに取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	ホーム向かいにある福祉会館内の喫茶店に出かけ、定期的に行われるバザーにも参加し、地域の方と顔なじみになり、交流の場となっています。また吹田市の長寿連合会の方との交流や、シルバーボランティアの楽団の来訪があり、利用者も楽しみにしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は各職員も検討し、意見を出してもらう等して、管理者がまとめて作成しています。前回の外部評価結果については再度内容を確認し、職員全員で改善への取り組みを行っています。体調面等の理由により入浴が難しい利用者には、足浴や清拭で対応するなど工夫しています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族、地域包括支援センター職員、地域福祉委員、職員等が参加し、2か月に1度定期的に開催しています。利用者のホームでの生活状況や行事予定の連絡、外部評価への取り組みや結果報告を行い、意見交換を行っています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2か月に1度の事業所連絡会に参加しています。また吹田市が主催する地域密着型サービス事業所の小部会では、研修会や交流会、介護フェアなどの相談や意見交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「やすらぎ新聞」を発行し、ホームでの様子などを家族に郵送し連絡しています。金銭管理は、金銭預かり出納帳を個別に設け、領収書の添付も行っています。家族の来訪時に残高の確認を行い、サイン・捺印を得ています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時は、できるだけコミュニケーションをとり、気軽に話せる雰囲気作りに配慮しています。また、苦情や意見を直接言ってもらえるように努めています。改善点があれば迅速に対応していくことを心がけています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットの職員配置を固定化して、利用者との馴染みの関係を作れるよう努めています。職員の相談事には管理者が親身になって相談にのり、離職を最小限に抑える努力をしています。退職する職員の送別会を利用者と一緒に行い、利用者にも理解をしてもらっています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を4期に分けて研修計画が作成され、内部・外部含めて6回以上の研修が予定されています。「緊急時対応」「認知症」「感染症」の研修も実施されています。法人外研修も職員の希望があれば可能な限り勤務調整を行い、研修を受ける機会を確保しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流があり、ケアの相談やアドバイスをし合う等、日々のケアに役立てています。今後は、他のグループホームとの相互の見学会を予定しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、体験入居で少しずつホームでの生活に慣れてもらえるよう対応しています。また、家族から本人の生活歴等を聞き、アセスメントしたことを参考に、ホームに馴染んでもらえるよう配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	英語の先生をしていた方には、英語の発音を教えてもらい、書道が得意な方には毛筆で暑中見舞いや、詩を書いてもらう等、職員もその上手さに驚かされ、尊敬し合える関係があります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴や背景など、アセスメントの情報を職員が共有し、「どのようにしたいか」「どのように過ごしたいか」を常に考えながら利用者と接しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントの情報や家族からの意見を聞き、反映された介護計画の作成に努めています。介護計画の中の目標は、現場の職員が毎日チェック表で確認し、ケアを行っています。それをもとにモニタリングを行い、皆の意見を取り入れた介護計画を作成しています。介護計画は家族にも説明し、了解を得てサインをもらっています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、定期的に3～6カ月の見直しを行い、また必要に応じて都度、見直しもされています。日々のケアの中での気づきや情報により、話し合われた内容が活かされています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスで行われる、夏祭りや他のイベントにも一緒に参加させてもらい、デイサービスの利用者とも交流を図っています。また年1回の介護予防教室を開催し、地域や老人会からの参加もあり、地域での多機能性を活かしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の主治医の往診と、週1回の訪問看護により、利用者の体調管理ができており、利用者、家族にも安心感を与えています。それぞれに24時間対応で緊急時の指示もスムーズにとれ、連携がとれています。入居前からの専門医への受診も行っています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の看取りについては入居時に、家族、本人、主治医と話し合いが持たれ、ホームでの方針を伝え理解してもらっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入社時には、退職後も守秘義務が課せられる文言を含んだ誓約書を取り、日常的にも書庫には鍵をかけるなど、個人情報の取り扱いに十分配慮しています。利用者に対しては丁寧な言葉かけや対応を行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の思いを大切にし、根気強く声かけをすることもあれば、無理強いせず、見守るケアを行ったりしながら、個人個人の能力や希望に合わせ利用者の理解に努めています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料は外注ですが、調理、味付け、盛りつけは利用者が積極的に参加し、職員と一緒に行っています。月に1度、メニューを利用者と一緒に考え、買い物から調理まですべて利用者と共に行っています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴の実施に取り組んでいます。時間や曜日を決めず、自由に入浴できるように配慮しています。利用者の重度化が進み車椅子の利用者は浴槽に入ることが難しい状況です。また骨折により制限されている方や立位の困難な方のみ足浴しながらシャワー浴で対応しています。	○	環境面での問題が懸念されますが、併設しているデイサービスの浴室を利用するなど、工夫し身体に合わせた入浴ができる環境を作っていくことが求められます。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の掃除、モップ掛け、玄関の掃き掃除は利用者の日課になっており、役割を持って積極的に行っています。他に洗濯干し、洗濯たみも手伝ってくれています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのスーパーに毎日のおやつを利用者と一緒買い物に出かけています。週に1～2回は向かいの福祉会館内にある喫茶店に出かけています。また敷地内ではありますが、毎日建物から外に出て、花木の世話やベンチに座りくつろいでいます。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には鍵がかかっていますが、簡単な解除ボタン式で、利用者も自由にボタンを押し出入りしています。自分で鍵が開けられない利用者には職員が付き添い、一緒に外出するよう心がけています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害時マニュアルの作成があり、消防署との連携により、年2回の消防訓練も実施されています。また「備蓄リスト」を作成し、災害時にも対応できるよう備蓄も万全な体制をとっています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取、水分量の把握は毎回チェックを行い個々に対応しています。食事摂取が困難な利用者にはミキサー食や、食べやすく小さなおにぎりにする等、利用者に合わせて対応しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には利用者が生けた季節の花が飾ってあり、ソファや椅子がゆったりと置かれている等、利用者は思い思いの場所で自分の時間を過ごせるようになっています。不快な音や光は感じられませんでした。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には、手作りの暖簾が掛かっています。室内にはひ孫の写真や、夫の写真、趣味である花の写真や絵が自由に飾られ、心地よく過ごせる空間作りが工夫されています。また自宅で使い慣れたタンスや仏壇を置かれている方もいました。		